

サプライチェーンデータ共有・連携ワーキンググループ 資料

サプライチェーン構造可視化推進に向けて

2023.2.15



代表取締役社長

津田 裕大

yudai.tsuda@resilire.jp



会社のご紹介

会社概要

社名: 株式会社Resilire

設立: 2018年9月6日

本社: 東京都港区港南2丁目15-1品川インターシティA棟22階

事業: サプライチェーンリスク管理サービス

資本金: 2,001万円(資本準備金を含む)

代表者: 津田 裕大

顧問アドバイザー



杉田 浩章 ,顧問



ボストン・コンサルティング・グループ元日本代表

主な株主

archetype^{*}
ventures

 dnxventures

STR/VE

DEEP(ORE

MIZUHO

みずほキャピタル

mint

取引実績

 小林製薬

SEKISUI



NAGASE

長瀬産業株式会社



豊田通商



ファインテクノロジーで未来を拓く

NaigaiTEC



アジェンダ

1 可視化の阻害要因

2 解決の打ち手

3 事例紹介



開示インセンティブ、投資インセンティブ、オペレーションの三大阻害要因

【開示側の課題】

上流企業が情報開示をしたがらない

- データ提供側の開示インセンティブが低い
- 情報開示により原料メーカーと直接取引関係を持たれる懸念
- 情報開示・情報変更の伝達工数が大きく情報が陳腐化する

【開示依頼側の課題】

可視化推進への投資が進まない

- 企業間データ連携の必要性に対する経営層の理解が薄い
- SC寸断可視化のみのユースケースだと長期の確率論的なリスクヘッジと捉えられ予算が縮小
- 成功事例が少なく実現イメージが湧かない

【相互の課題】

情報開示推進のオペレーションが確立されていない

- 情報開示の進め方が不明
- データ連携基盤がない、データ連携が個社毎に断絶されておりデータが陳腐化する
- データ連携をリードする人材の不在



開示インセンティブ、投資インセンティブ、オペレーションの三大阻害要因

【開示側の課題】

上流企業が情報開示を
したがない

- データ提供側の開示インセンティブが低い

- 情報開示により原料メーカーと直接取引関係を持たれる懸念

- 情報開示・情報変更の伝達工数が大きく情報が陳腐化する

【開示依頼側の課題】

可視化推進への投資が進まない

- 企業間データ連携の必要性に対する経営層の理解が薄い

- SC寸断可視化のみのユースケースだと長期の確率論的なリスクヘッジと捉えられ予算が縮小

- 成功事例が少なく実現イメージが湧かない

【相互の課題】

情報開示推進のオペレーション
が確立されていない

- 情報開示の進め方が不明

- データ連携が個社毎に断絶されておりデータが陳腐化する

- データ連携をリードする人材の不在

データの受け手と提供側それぞれへのインセンティブ設計が鍵



アジェンダ

1 可視化の阻害要因

2 解決の打ち手

3 事例紹介



どのように解決を進めるか、打ち手は何があるか

[開示側の課題]

上流企業が情報開示を
したがない

情報開示インセンティブ設計、国か
らの開示要請

- 情報開示ガイドラインの策定及び情報開示要請※協調領域から進行
- サプライヤ情報を多く持つ企業との連携推進
- SCレジリエンス対応状況の開示を推奨

[開示依頼側の課題]

可視化推進への投資が進まない

多面的にSCデータ可視化により生
まれる価値(必要性)を啓蒙

- SCレジリエンス対応状況の開示を推奨
- 重要企業と実証実験=事例構築
- SC可視化のデジタル化を進めるツールの導入支援

[相互の課題]

情報開示推進のオペレーション
が確立されていない

データ連携フォーマットの提供SC
データ開示・管理業務の必要性の
啓蒙

- データ連携基盤、データ連携フォーマットの提供
- SCデータマネジメント職務人材の育成支援



SCレジリエンス対応状況の開示推進の検討

	項目	項目の考え方
可視化	サプライチェーン構造の把握	自社のサプライチェーンの構造(生産拠点、生産品目/品名/品番など)をサプライヤ(Tia1、Tia2、Tia3)含めて、どこまで把握できているか
拠点 (工場・店舗)	サプライヤリスク	自社でサステナビリティガイドラインを作成し、財務状況含めて、サプライヤの状況を調査できているか
	(海外)カントリーリスク	拠点が配置されている国の政治・経済・社会環境に関わるリスクを認識しているか ※リスク判定については、貿易保険(NEXI)のリスクを使用
	(国内)ハザードマップ(洪水/高潮/津波)	拠点が配置されている地域の浸水レベルに応じた対策が取られているか (国土交通省が設定)
	(国内)土砂ハザードマップ	拠点が配置されている地域の土砂災害の警戒レベルに応じた対策が取られているか (国土交通省が設定)
	(国内)表層地盤増幅率	拠点が配置されている地域の表層地盤増幅率に応じた対策が取られているか
製品	素材/部材の代替性	製品の生産に必要な素材/部材に代替品があるか
	生産拠点のフレキシビリティ	リージョン・国内の複数の拠点で生産することができるか
物流 (車・船・飛行機)	輸送距離	サプライヤ拠点から自社工場 / Tier2からTier1 / Tier3からTier1 までの輸送距離や輸送ルートのリスクレベルに応じた対策が取られているか

※開示項目事例



アジェンダ

1 可視化の阻害要因

2 解決の打ち手

3 事例紹介



事例紹介

提供プロダクト

サプライチェーンリスク管理SaaS

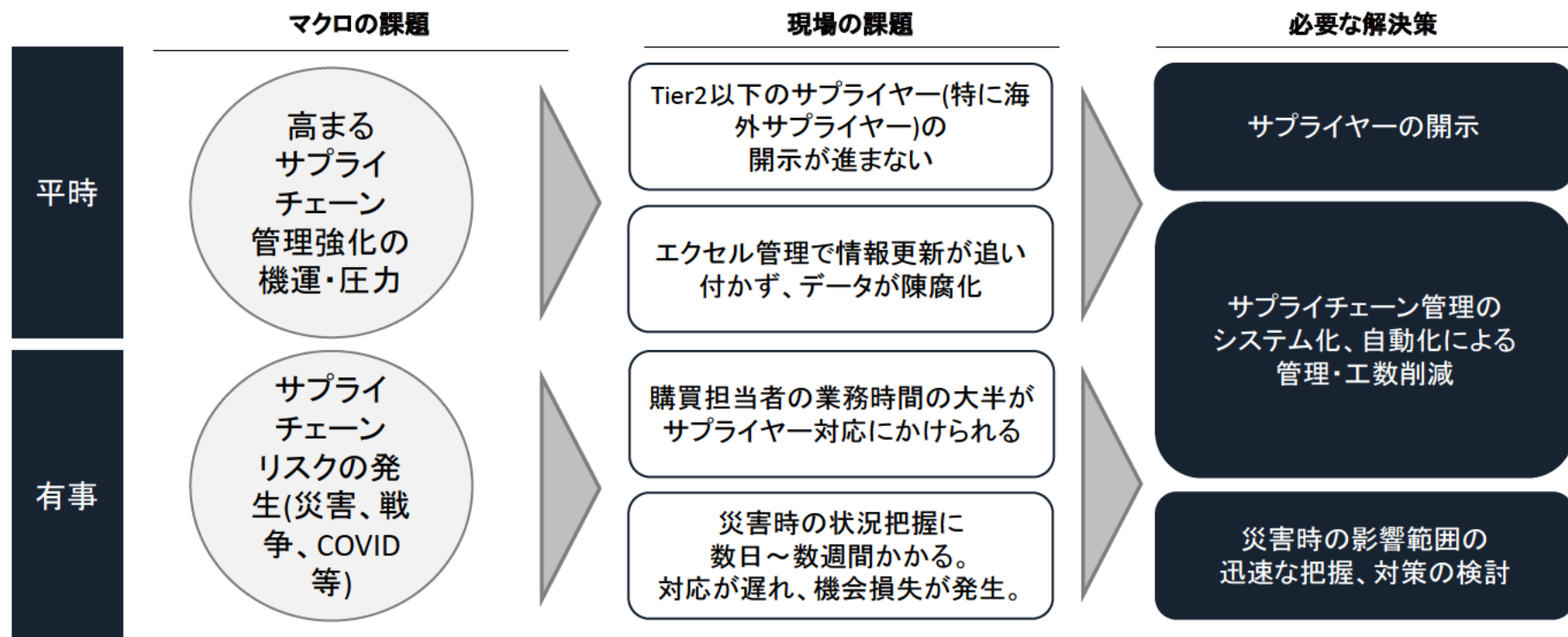
Resilire

サプライチェーン全体(社内拠点や委託先、原料調達先)をツリー上で構造的に管理。災害時、被災影響の可能性のある拠点をマップ上で可視化・リスト化。リストの拠点到自動でアンケート配信から回答結果のレポート生成を可能にする
プロダクトを提供しています。





Resilireが捉えている課題



サプライチェーンのリスク管理要請は高まり続け、現場では課題が露出



提供価値

1

取引先を巻き込み サプライチェーン全体を管理

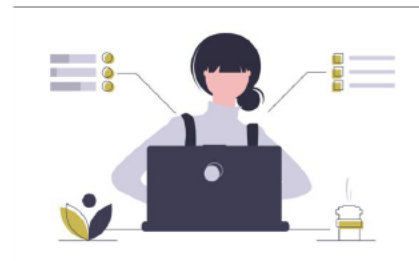
委託先だけでなく、原料調達先まで
クラウドでサプライチェーン全体を可視化可能になります。



2

被災影響のある 拠点とサプライヤーを把握できる

災害時に被災したサプライヤーと被災によって影響の出る
サプライヤーまで把握可能になります。





1. サプライヤーの可視化

サプライヤー情報を
ツリー構造で可視化

エクセル等を使用しマニュアル管理していたサプライヤー情報をツリー構造で可視化。ERPに登録されていなかった2次サプライヤー以降の情報もツリー構造に組み込める。



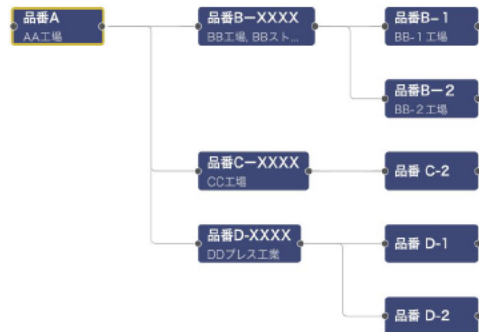
サプライヤー情報をResilireに連携することで調達網を可視化



提供価値

登録した会社や拠点にデータを蓄積し、独自のサプライヤーDBを構築

製品単位



会社単位



詳細 状況 チャット 社内

ステータス：正常

会社名

品番A

タグ

タグを追加

重点管理品 ×

品目

品目を追加

A01EFS × 品番A ×

連絡先

田中一郎

+ 連絡先を追加

共有メモ

+ メモを追加

拠点

AA工場

+ 拠点を追加

詳細 状況 チャット 社内

社内タブは、「管理者」と「メンバー」の権限を持つユーザーしか閲覧する事ができません

タグ

タグを追加

リスクレベル4 × 代替生産 ×

会社コード ×

社内専用メモ

代替品

+ メモを追加



提供価値



サプライヤーがレジリアに直接情報を入力できる体制を構築
情報開示インセンティブを創出し、開示を促進



2. リスク検知の迅速化

シンプルなマップUIで被災影響のある拠点、サプライヤーを把握。

地震・河川氾濫・停電等の被災状況について、気象庁等情報から自動でマップ上に可視化することが可能

重要な拠点やサプライチェーン等をマップ上でピン挿しでき、どこに被害がある可能性があるかのリスト化が可能

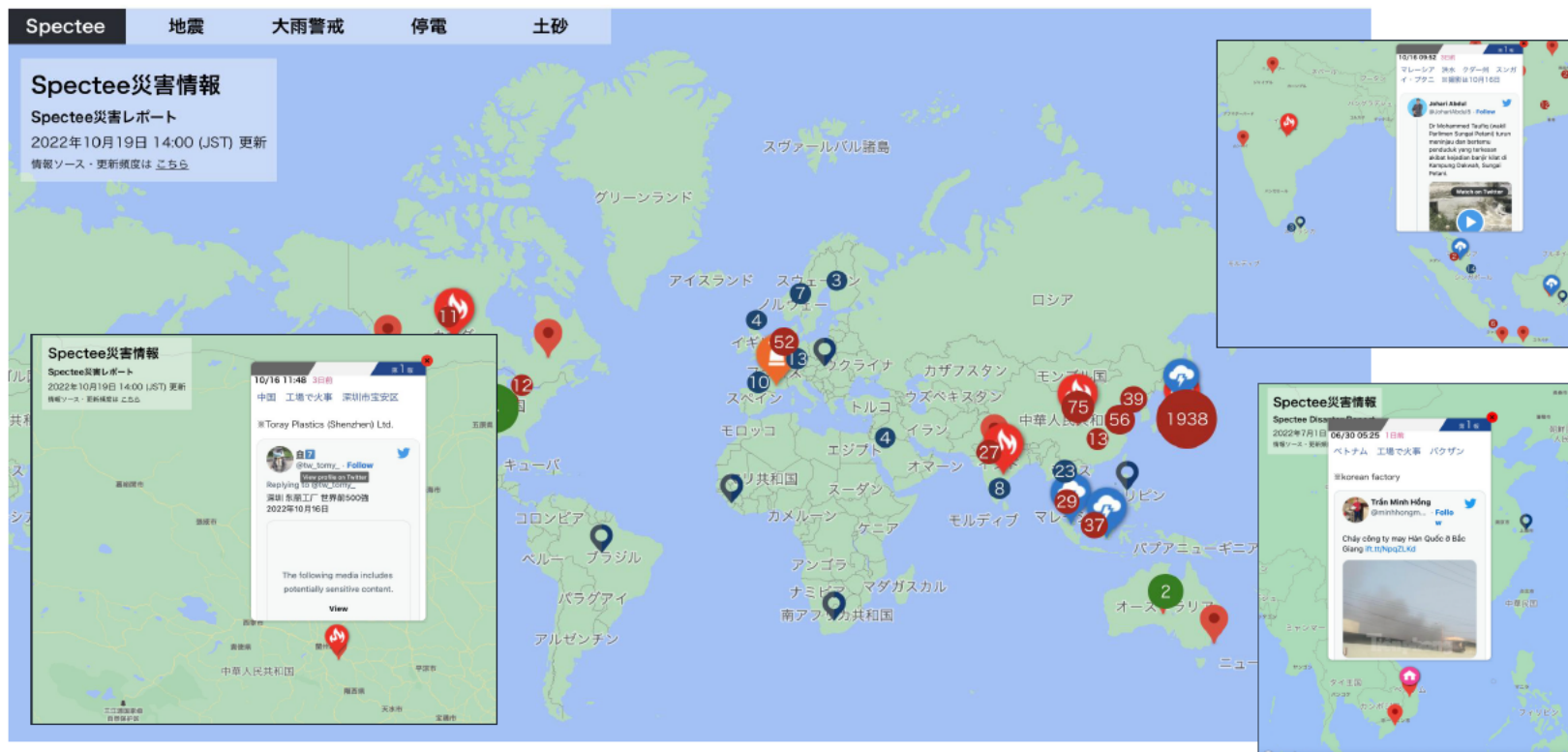


シンプルで分かりやすいマップUIで被災影響のあるサプライヤーを可視化



提供価値

SNS情報とサプライチェーン情報を組み合わせ、グローバルで寸断リスクを検知

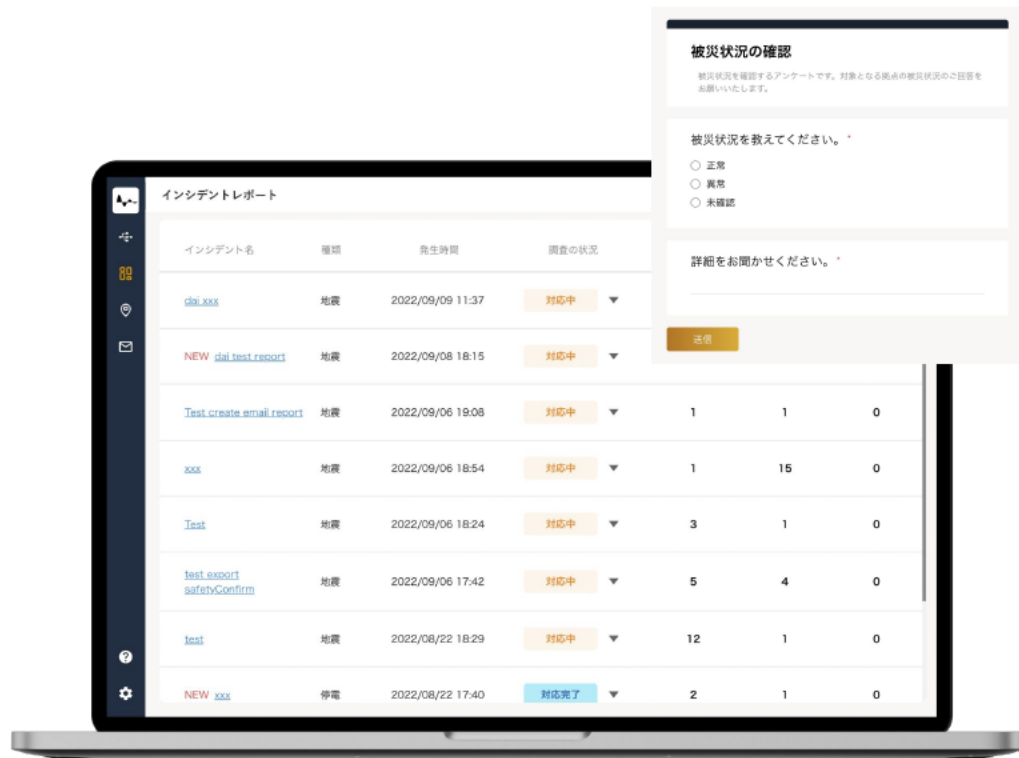




2. リスク検知の迅速化

被災影響回答状況を
自動でレポートニング

現場から、経営までリアルタイムに情報共有
が可能



影響範囲における被災影響回答状況を自動でレポートニング

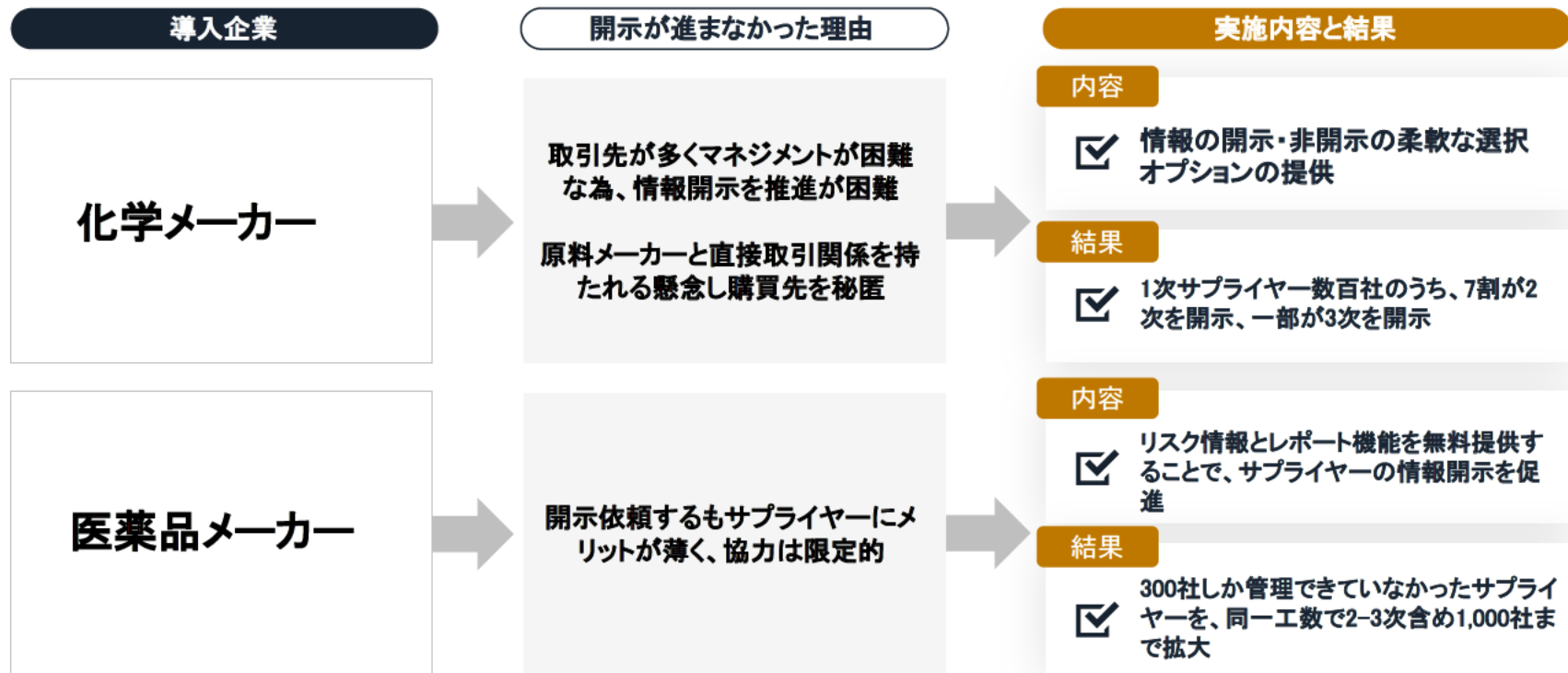


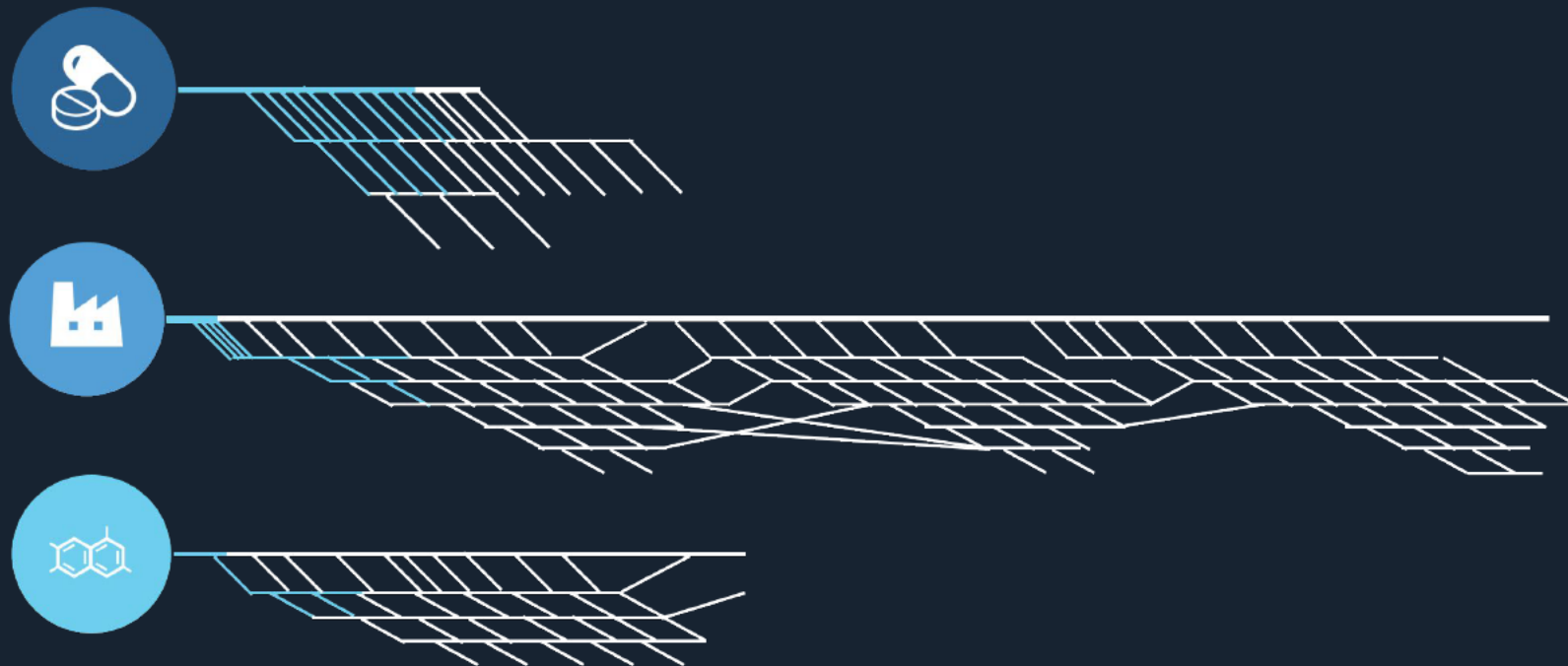
3ステップの対応で、リスクに強いサプライチェーンを実現

LV	段階	必要な対策
1	SCネットワークの 把握と維持	・Tier2-3以降のサプライヤーまで、ネットワークを可視化 ・社内で断片化している情報を集約し、一元管理できる仕組み構築 ・定期的にサプライヤー情報を吸い上げ、簡易にメンテナンスできる仕組み構築
2	問題発生時の 対応	・偶発的に発生するリスク情報をプロアクティブに検知できる仕組み構築 ・自社への影響を迅速に把握し、対策を打てる運用フロー構築 ・問題発生時の対応の属人化を排除、工数削減できる運用フロー構築
3	予測分析管理	・可視化したSCネットワークからボトルネックを特定(地理的な偏り、単一購買) ・可視化したSCネットワーク上でのESGリスクの吸い上げ ・リスク情報を元にした購買戦略の策定、アクション

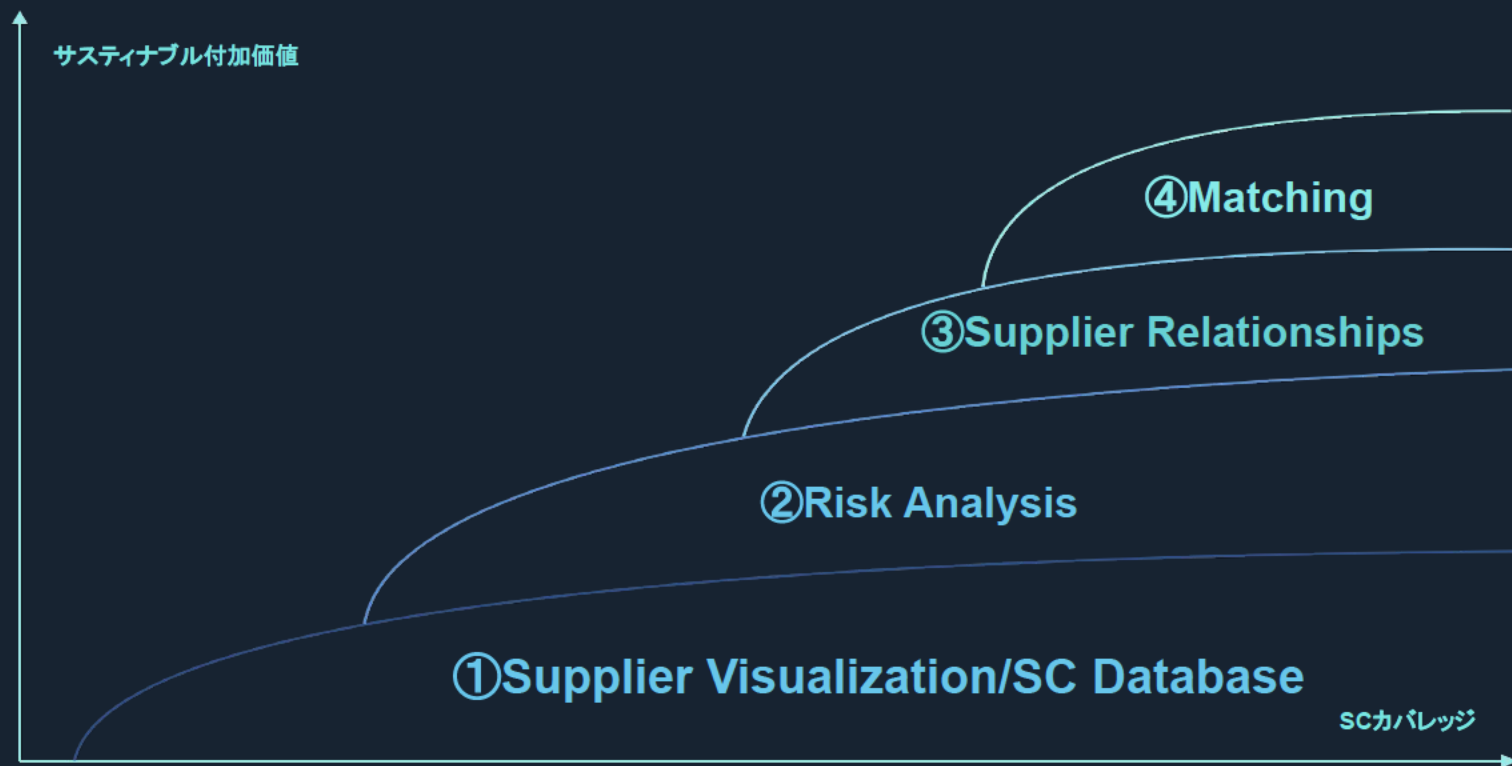


サプライヤーの協力を促す仕掛けを作り、開示を促進





Resilireでサプライネットワークを構築



持続可能なサプライチェーン基盤を実装する

